＜学校教育目標＞
すべての子どもに
生きる喜びと
あすをつくる力を

わかえっ子

東大阪市立若江小学校
学校だより
令和5年2月号

幸せとは

教頭　入口　浩樹

冬というと何を思い浮かべますか。私は、毎年、冬になると、イギリスの詩人シェリーの「西風に寄せる歌」の一節にある

If winter comes, can spring be far behind?

という言葉を思い出します。日本語にすると、「冬来たりなば春遠からじ」ということわざです。意味は、「たとえ今が不幸であっても、じっと耐えていればいつかは幸せが訪れる」です。生命の息吹を感じる季節の代表が、「春」というのは、どの国においても、同じようです。春というのは、待ち遠しいものなのでしょう。

では、どのような冬を過ごすと、幸せな春を迎えることができるのでしょう。幸せの基準は、人それぞれですし、人と比べるものではないと思っています。でも、幸せを大きく感じたいのは、みんな同じではないでしょうか。私は、「幸せを得たいなら、人一倍苦労したい」と思っています。なぜなら苦労には、自分なりのエピソードを生む力があります。そのエピソードは、自分の糧と自信となり、次の幸せに向かう推進力となります。

これは、脳科学でも証明されています。一度、成功することを覚えると、脳はまた、同じような経験をしようと、次々と頑張る力を体に送ります。これは、何歳になっても経験することができます。はじめから、大きな成功をめざすのではなく、一人ひとりに合った経験をすることが何よりも望ましいです。そして、大人は、じっと待つこと、任せること、何かあった時には一番に話を聞くことが役割です。これは、「信じている」関係だからこそできることです。

子どもの幸せを、一番に考えられる大人でありたいですね。できれば、一番に喜べる存在でありたいです。

「三年飛ばず鳴かず」

６学年主任　三浦　光雄

卒業式を間近に控え、中学校へ向かう子どもたちの中学校三年間を思うときに「三年飛ばず鳴かず」との言葉を思い浮かべます。諸説はございますが、「飛べば高く飛び上がり、鳴けば人を驚かすという鳥が、三年間飛びも鳴きもせずにいるという」意味の故事に由来します。その意味は、「鳥が三年間止まったままなのは、意思を固める準備をしているからで、この鳥は飛べば天に昇り、鳴けば人々を動かす」と答えたといわれています。

この言葉と中学校三年を比べることは、元より捉え方の違いはありますが、巣立ちゆく９２人が、世界に大きく羽ばたいていく準備期間です。

この１年間　共に過ごした、二度と経験することのできない大切な時間を共に過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。

これからの三年間は「人生の十字路」を歩むスタートになり、右へ行けばよいか、左に行けばよいかと、悩みに向き合う時でもあります。ゆえに、育ててくれた方々に「感謝」の心を忘れずに、自分の選んだ道を堂々と歩んでほしい。世界が、あなた達の成長を待ってくれています。そのために、学び抜いてください！

最後に、卒業式を目の前に、卒業する子どもたちに、次の言葉を届けたいと思います。

「勝つことだけが人生ではない。ゆえに負けないという人生は勝ちになる。だからこそ勝つことよりも負けない人生を」と贈ります。どうか、健康第一で親孝行の人生をお願いします。